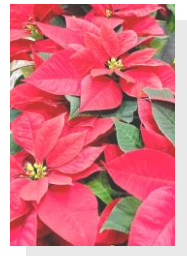


早くも今年最後の12月を迎えました。あつという間の2023年、この12月も生かされている恵みを神様に感謝しつつ、毎日を大切に過ごしていきたいと思えます。



この時期、いろいろなところがクリスマス色に彩られ、クリスマスの雰囲気町を覆います。先日、国分寺キリスト教会と関わりのある林田オリーブチャペル(坂出市)の火曜礼拝に出席しました。その時に、出席された方から「ざくろ」をいただきました。ざくろを食べる機会ほとんどありませんが、とても面白い果物だと思います。その理由は、中が赤く、つぶつぶで、種が白くて大きいこと、見た目がまるで子どもの時に血がついたまま取れた歯がたくさん中に入っているような感じがするからです。赤はある意味、冬のクリスマスカラーの一つと言えます。皆さんがご存知のように、この時期の代表的な植物の一つが「ポインセチア」です。ショッピングモールやスーパーの中の花屋さんや花コーナーにはたくさん出回りますから、見るだけでも楽しいものがあります。赤だけでなく、ほかの色もあります。日本では主に冬に見かけますので、ポインセチアはどこか寒い国が原産国かと思いましたが、いろいろ調べてみますと、原産国はメキシコなどの中南米のようです。時を経て、日本よりは比較的暖かいところから、この日本にも伝わってきたようです。

それに私たちが目にするその赤は、実は花びらではなく、葉だそうです。確かに良く見れば「なるほど」と思えます。緑色がやがて赤に変わっていくのは何とも言えないほど、不思議であり、神秘的でもあり、神様の御業をそこに思うことができます。またポインセチアはクリスマスの時期に出回ることもあって、その「赤」というのは、イエス・キリストが十字架上で流された「血」を象徴しているとも言われています。花言葉は「祝福する」、「聖夜」だそうです。まさにクリスマスにふさわしい植物とも言えるでしょう。

パウロという人物は、新約聖書のエペソ書1章7節で次のように書いています。「このキリストにあつて私たちは、その血による贖い、背きの罪の赦しを受けています。これは神の豊かな恵みによることです。」

パウロはすぐ前の箇所であるエペソ書1章3節で、「天上にあるすべての霊的祝福をもって私たちを祝福してくださいました。」と書いています。その「霊的祝福」の具体的なものが何であるのかが3節以降14節までいっきに一つの文章としてまとめられていて、その一つが、イエス・キリストの十字架による贖い(あがな)いであつて、罪の赦しであるということです。「贖う」とは「代価を払って買い取る」という意味があります。つまり、イエス・キリストが十字架上で私たちの身代わりとなつて苦しまれ、死なれ、葬られ、やがて復活されました。人が神様に背いている状態から方向転換し、イエス・キリストの身代わりの死がこの私の罪の赦しのためであつたと信じることによって、神の所属とされ、神様との正しい関係、回復された本来あるべき関係に入れられます。

クリスマスは救い主イエスさまのご降誕(誕生)を記念し、互いにお祝いする時です。なぜ世界中の教会がイエス・キリストの誕生を記念するのでしょうか。それは私たち人類の罪の身代わりとなつて十字架にかかつて、死なれるためにお生まれになつたイエス・キリストを思いめぐらし、ともに喜ぶためです。墓に葬られましたが、よみがえられて、目には見えませんが、今も生きておられるお方です。これらの出来事は、まぎれもない歴史的事実です。まさに私たち人類のため、「死ぬために生まれた」のです。皆さんも、この事実を自分自身のこととして、受け止め、受け入れてくださることを心から願っています。

ポインセチアの赤を見る時に、聖書の中に示されたイエス・キリストの十字架の出来事を思い起こし、この時期、教会のクリスマス集會に出席していただきますようにご案内申し上げます。詳細はホームページやチラシ案内をご覧ください。今年、教会において、本当のクリスマスを過ごすことができますように。